

日本人の宗教団体への  
関与・認知・評価に関する世論調査  
報告書

2020年3月  
公益財団法人・庭野平和財団

## 調査の目的

### はじめに

地域社会における劇的な変化や、人口減少・少子高齢化・晩婚化といった急激な人口変動が直接私たちの生活に大きく影を投げかける時代となった。こうした社会構造の変動は今になって始まったわけではなく、戦後70年間に生じたものである。しかしながらここ数十年の間に変動は加速化し、日本の将来に暗雲となって現れていることを専門家ばかりでなく誰もが実感するようになったのは比較的最近のことである。さらには、1990年代から急速に発展した電子デバイスは不可欠な装置となり、私たちの生活様式を大きく変えることになった。

こうした社会構造の変動は、文化の領域にも大きな影響をもたらした。宗教は精神文化の中でも中核的な濃い文化として知られているが、宗教が基盤としてきた社会構造の変動や高度情報化社会の進展によって変化してきたことが予想される。本調査は世論調査によって、こうした変容の一端を理解しようとする試みである。

日本人の宗教意識や神観念、あるいは日本人の宗教団体への関与・認知・評価が、戦後の急激な社会変動の中で、持続もしくは変化しているのかどうか、あるいは、どのような点が維持され、どのような点が変化しているかを判断するしようとしたときに、定期的に実施される世論調査は、たとえ概要であったとしても、きわめて有益である。

本書は、2019年に庭野平和財団が実施した「日本人の宗教団体に対する関与・認知・評価に関する世論調査」の調査報告である。庭野平和財団は、公益目的事業の一部として、これまでにも宗教団体の行う多様な社会活動に関する基礎資料を提供するために「宗教団体の社会貢献活動に関する世論調査」を繰り返し実施してきた。宗教団体が行う個々の社会活動は、どの程度認知、評価、期待されているのかを明らかにすることを目的として2008より4年ごとに実施したものである。

「日本人の宗教団体に対する関与・認知・評価に関する世論調査」は、1999年に阿部美哉を代表とする研究者が実施した同名の世論調査を第1回として、その後2004年に國學院大學21世紀COEプログラムにおいて第2回を実施した。第3回はそれまでの世論調査に関わってきた石井研士が文部科学省科学研究費事業として2009年に実施した。今回の調査は、第3回調査から10年度、第1回からは20年後の調査となる。

## 調査の概要

### < 2019 年調査 >

- ・調査日 2019 年 6 月 7 日～ 16 日
- ・対象者 住宅地図による満 20 歳以上の男女 4000 人（層化副次（三段）無作為抽出法）
- ・実施方法 個別面接聴取法（官製葉書による事前協力状送付）
- ・有効回答数 1203 人（30.1 %）
- ・回答者内訳 男 46 %、女 54 % ▽ 20 歳代 11 %、30 歳代 13 %、40 歳代 18 %、50 歳代 16 %、60 歳代 17 %、70 歳代 26 % ▽ 21 大都市 28 %、その他の市 62 %、郡・町村 10 %

※本調査は庭野平和財団「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する調査」による調査で、世論調査の実施は社団法人中央調査社に依頼して行われた。

### 参考

#### < 1999 年調査 >

- ・調査日 1999 年 11 月 11 日～ 14 日
- ・対象者 住民基本台帳による満 20 歳以上の男女 2000 人（167 地点、層化二段無作為抽出法）
- ・実施方法 個別面接聴取法（官製葉書による事前協力状送付）
- ・有効回答数 1345 人（67.3 %）
- ・回答者内訳 男 45 %、女 55 % ▽ 20 歳代 11 %、30 歳代 17 %、40 歳代 19 %、50 歳代 21 %、60 歳代 33 % ▽ 13 大都市 23 %、その他の市 54 %、郡・町村 23 %

※本調査は文部省科学研究費「日本人の宗教意識と行動」（代表者・阿部美哉國學院大学教授）による調査で、世論調査の実施は社団法人・中央調査社に依頼して行われた。

#### < 2004 年調査 >

- ・調査日 2004 年 10 月 8 日～ 11 日
- ・対象者 住民基本台帳による満 20 歳以上の男女 2000 人（167 地点、層化二段無作為抽出法）
- ・実施方法 個別面接聴取法（官製葉書による事前協力状送付）
- ・有効回答数 1385 人（69.3 %）
- ・回答者内訳 男 48 %、女 52 % ▽ 20 歳代 11 %、30 歳代 19 %、40 歳代 16 %、50 歳代 21 %、60 歳代 33 % ▽ 14 大都市 23 %、その他の市 56 %、郡・町村 21 %

※本調査は文部科学省 21 世紀 COE プログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」の一環としての調査で、世論調査の実施は社団法人・中央調査社に依頼して行われた。

#### < 2009 年調査 >

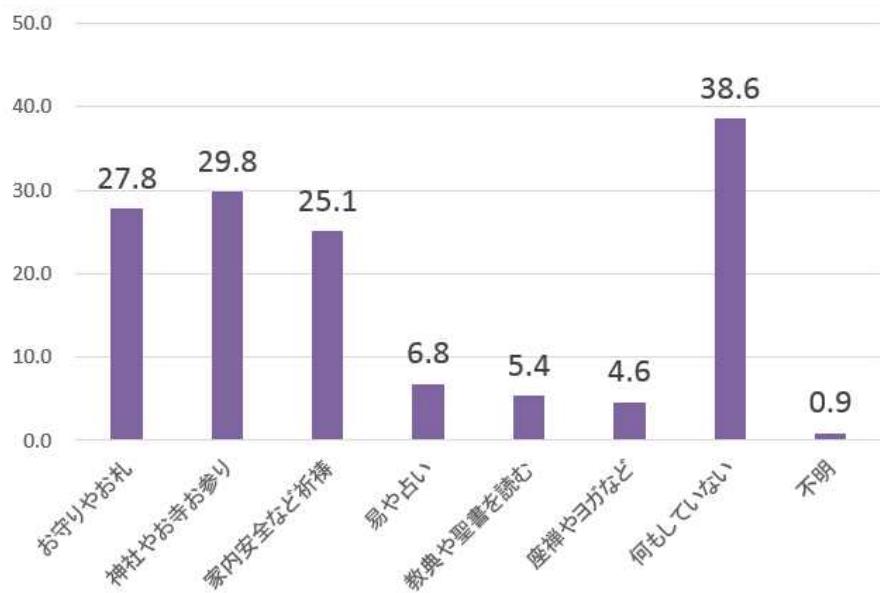
- ・調査日 2009 年 12 月 1 日～ 14 日
- ・対象者 住民基本台帳による満 20 歳以上の男女 2000 人（167 地点、層化二段無作為抽出法）
- ・実施方法 個別面接聴取法（官製葉書による事前協力状送付）
- ・有効回答数 1362 人（68.1 %）
- ・回答者内訳 男 47 %、女 53 % ▽ 20 歳代 13 %、30 歳代 19 %、40 歳代 16 %、50 歳代 18 %、60 歳代 35 % ▽ 19 大都市 26 %、その他の市 64 %、郡・町村 10 %

※本調査は文部科学省科学研究費「世論調査による日本人の宗教性の調査研究」（代表者・石井研士）による調査で、世論調査の実施は社団法人・中央調査社に依頼して行われた。

## どんな宗教的な行為を行っている？

Q 1 ここにあげるようなことで、現在、あなたが行っているものがあれば、いくつでもあげてください。(M.A.)				
	1999 年	2004 年	2009 年	2019 年
1.お守りやお札などを身につけている	24.2	21.3	26.4	27.8
2.神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする	30.6	26.1	29.1	29.8
3.家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷をしに行く	26.8	20.9	28.0	25.1
4.易や占いの記事を読んだり、見てもらう	8.4	9.0	7.3	6.8
5.教典や聖書など宗教に関する記事や本を読む	6.1	6.9	7.8	5.4
6.ふだんから座禅、ヨガ、ミサ、修行、お勤め、布教などいざれかをしている	3.3	4.5	4.3	4.6
7.どれもしていない、何もしていない	39.0	44.4	39.2	38.6
8.わからない	0.4	1.2	0.7	0.9

図表 1 実施している宗教行為



第 1 間では、「初詣」「お盆お彼岸の墓参り」「神棚・仏壇の参拝」を除いて、日本人が行っていると予想される宗教行為を尋ねた。

日本人の行う宗教行為で、「初詣」と「お盆お彼岸の墓参り」の実施率は常に高く、全国民的な宗教行動ということができる。神棚と仏壇もまた日本人の家庭にごく普通に祀られてきたものと考えられる。しかしながら近年、これらの宗教的行為や宗教的装置の低下もしくは減少が知られており、別に質問を設けた。

選択肢で回答率が高かったのは「神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする」(29.8%)、「お守りやお札などを身につけている」(27.8%)、「家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷をしに行く」(25.1%)の三つで、どれも 3 割に達しなかった。

明らかに宗教的な行為と考えられる「教典や聖書など宗教に関する記事や本を読む」「ふだんから座禅、ヨガ、ミサ、修行、お勤め、布教などをしている」は、低い回答率にとどまっている。

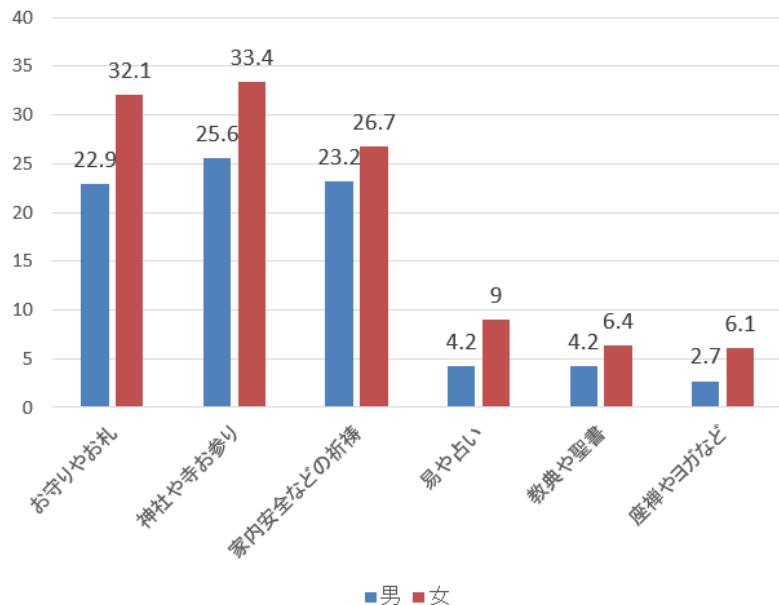
「どれもしていない、何もしていない」という回答が 4 割ほどあった。

実施率を市郡規模別にみると、実施率の高い「お守りやお札などを身につけている」「神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする」「家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷をしに行く」の 3 項目すべてで、「東京都特別区（東京 23 区）」の実施率がもっとも高くなっている。

性別では、全ての選択肢で「男性」よりも「女性」の実施率が高い（図表 2）。「お守りやお札などを身につけている」では 9.2 ポイント、「神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする」では 7.8 ポイント高く

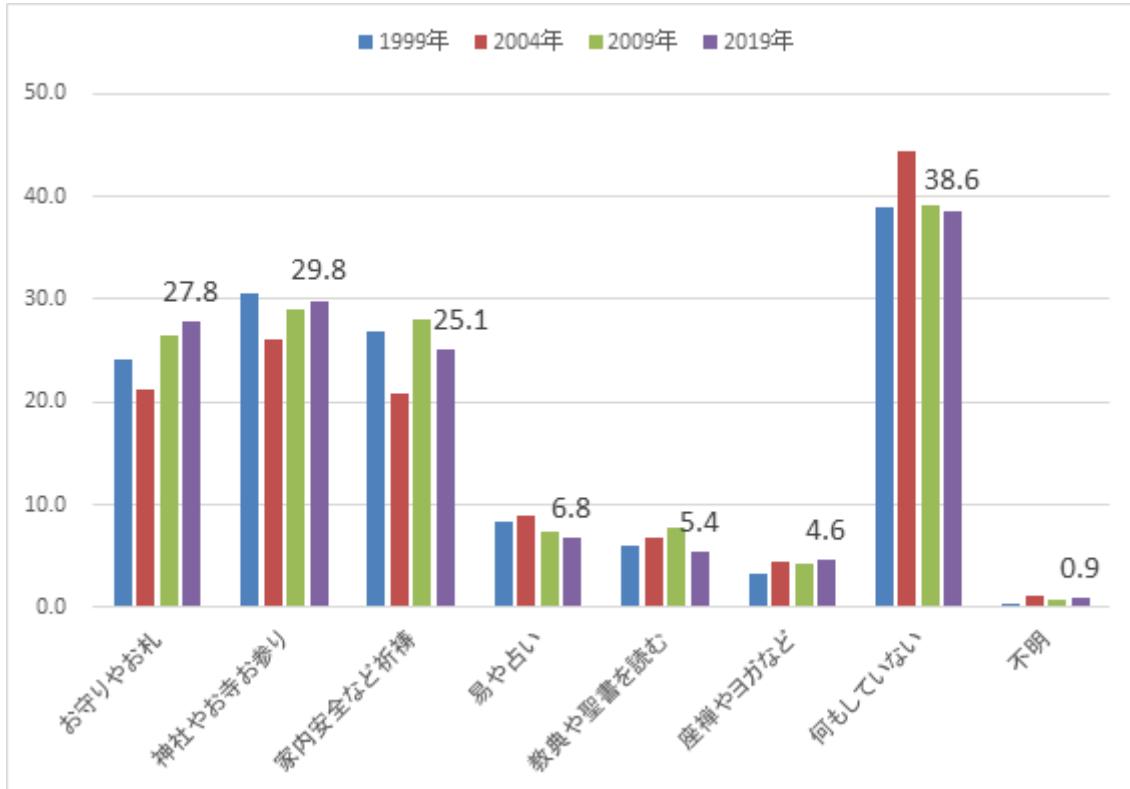
なっている。「お守りやお札などを身につけている」は「女性 40 代」(40%)、「神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする」は「女性 70 歳以上」(52.5%)、「家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷をしに行く」は「女性 40 代」(40%) が高くなっている。

図表 2 実施している宗教行為：性別



20 年間の変化を示したのが図表 3 である。この 20 年間の変化はほとんどみられない。「お守りやお札などを身につけている」が増加しているように見えるが、明白な傾向というためには今度の動向を確認する必要がある。

図表 3 実施している宗教行為：経年変化

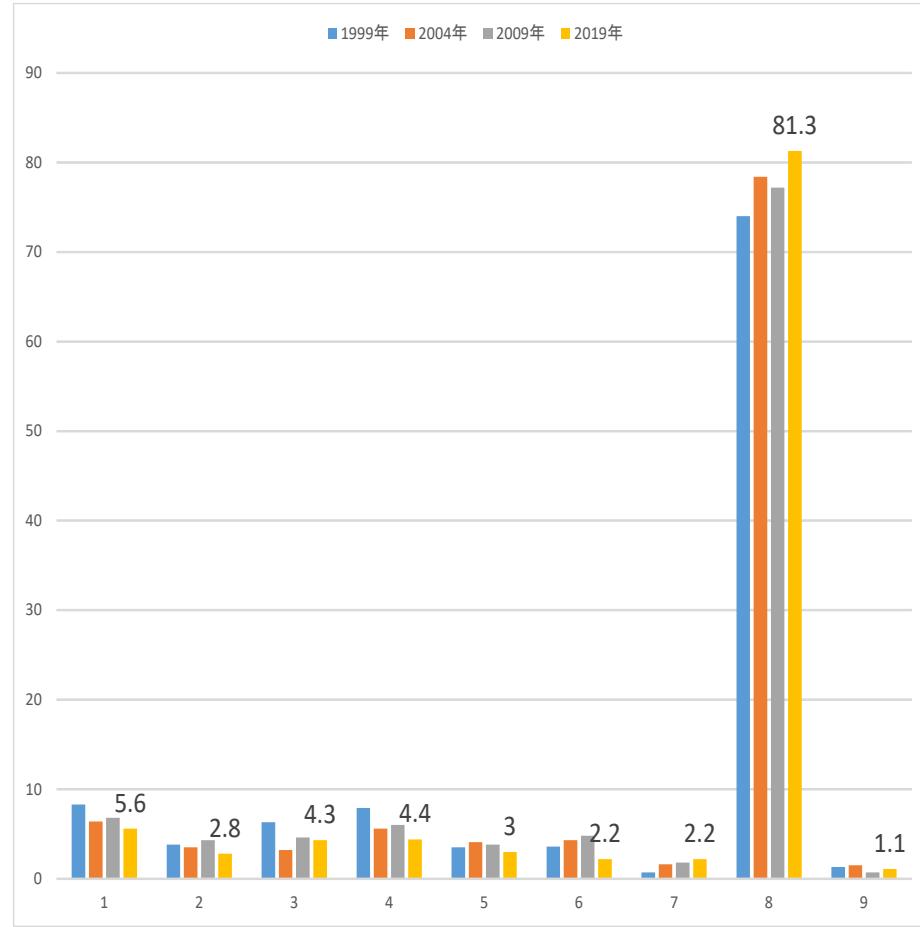


## 具体的な宗教団体との関わりは？

Q2 あなたは、この2～3年の中にここにあげるような行事や活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものを、すべてあげてください。(M.A.)

	1999年	2004年	2009年	2019年
1.神社やお寺などの伝統芸能の保存運動	8.3	6.4	6.8	5.6
2.教会の日曜学校、バザー、クリスマス礼拝など	3.8	3.5	4.3	2.8
3.神社の総代会や氏子崇敬会	6.3	3.2	4.6	4.3
4.お寺の総代会や護持会	7.9	5.6	6.0	4.4
5.宗教団体の奉仕・慈善活動	3.5	4.1	3.8	3.0
6.宗教団体の主催するセミナーや講演会	3.6	4.3	4.8	2.2
7.宗教団体の政治活動	0.7	1.6	1.8	2.2
8.参加したことはない	74.0	78.4	77.2	81.3
9.わからない	1.3	1.5	0.7	1.1

図表4 宗教団体との具体的関わり：経年変化



- 1 神社やお寺などの伝統芸能の保存運動
- 2 教会の日曜学校、バザー、クリスマス礼拝など
- 3 神社の総代会や氏子崇敬会
- 4 お寺の総代会や護持会
- 5 宗教団体の奉仕・慈善活動
- 6 宗教団体の主催するセミナーや講演会
- 7 宗教団体の政治活動
- 8 参加したことはない
- 9 わからない

宗教団体の信者や会員としてではなく、日本人が宗教団体と具体的に関わる可能性のある選択肢を設けて関係を尋ねた。神社や寺院の総代会、崇敬会、護持会への参加に関する質問を設けたが、日本人一般にとてはこれらの活動は「宗教団体」への帰属とは別の意味を有していると考えたためである。

図表4を見てまず気づかれるのは「参加したことはない」の多さで、8割を超えており、経年変化を見ると増加傾向にあるように見える。他方で、他の選択肢は1割に達せずきわめて低かった。

参加しているもので最も多かったのは「神社やお寺などの伝統芸能の保存運動」で5.6パーセントだった。

初詣などの一般的なお参りよりはより関係の強い「神社の総代会や氏子崇敬会」「お寺の総代会や護持会」への参加は1割に達しなかった。

「教会の日曜学校、バザー、クリスマス礼拝など」「宗教団体の奉仕・慈善活動」「宗教団体の主催するセミナーや講演会」「宗教団体の政治活動」への参加も1割に達せず、きわめて低い結果であった。

庭野平和財団による『宗教団体の社会貢献調査』の結果によれば、宗教団体の行う社会貢献活動の認知や評価はしだいに高くなっている。それにもかかわらず「宗教団体の奉仕・慈善活動」には参加しない傾向は、本調査でも同じだった。

これらの選択肢に関して、この20年間の変化はほとんどみられなかった。変化といえるかどうか微妙であるが、積極的な宗教団体との関わりは減少しているように見える。

わずかな差であるが、毎回の調査で、「神社の総代会や氏子崇敬会」よりも「お寺の総代会や護持会」の回答率の方が高い。

## 神棚・仏壇の保有率とお参りの頻度は？

Q 3 あなたの家には神棚がありますか。（ある人に）この中から 1 つだけあげてください。

	1999 年	2004 年	2009 年	2019 年
1.毎日拝む	1 7.0	1 2.1	1 1.1	1 1.2
2.時々拝む	1 4.6	1 4.6	1 4.2	9.8
3.拝むこともある	1 1.2	1 1.2	1 1.0	8.2
4.まったく拝まない	6.2	6.1	6.8	6.4
5.神棚はない	5 0.0	5 5.7	5 5.7	6 2.3
6.わからない	1.0	0.3	1.2	2.0

Q 4 あなたの家には仏壇がありますか。（ある人に）この中から 1 つだけあげてください。

	1999 年	2004 年	2009 年	2019 年
1.毎日拝む	3 0.6	2 5.9	2 6.7	2 5.4
2.時々拝む	1 4.4	1 9.3	1 4.5	1 3.4
3.拝むこともある	8.6	7.9	6.8	6.1
4.まったく拝まない	3.5	3.0	4.0	3.2
5.仏壇はない	4 2.2	4 3.6	4 6.9	5 0.0
6.わからない	0.7	0.3	1.0	1.8

神棚と仏壇は家庭祭祀を行うための施設で、多くの家庭に当たり前に存在するものと考えられてきた。神棚は氏神信仰や伊勢信仰と密接に関わり、仏壇は菩提寺と関係し祖先崇拝と深く結びついている。

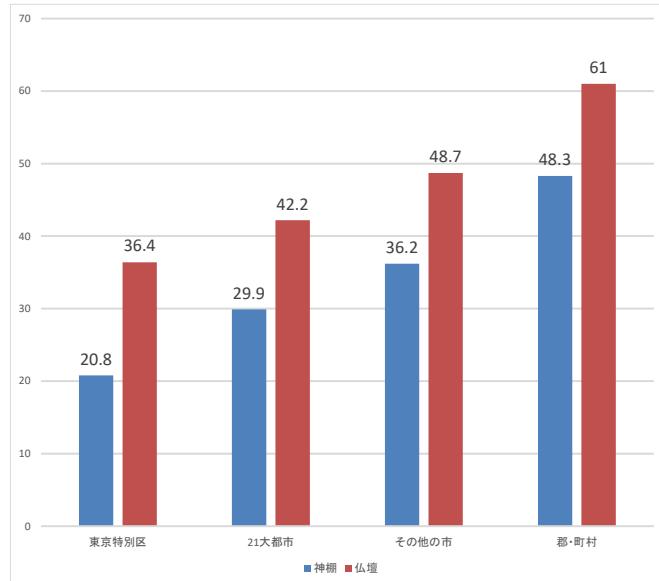
「神棚」の保有率は 35.7 パーセント、「仏壇」の保有率は 48.2 パーセントだった。定期的に神棚を参拝している人は 21 パーセント（「毎日拝む」と「時々拝む」の合計）。一方、定期的に仏壇を参拝している人は 38.8 パーセントだった。保有率、参拝率ともに仏壇が神棚を上回っている。

「神棚」の保有率は都市規模によって著しく異なっている（図表 5）。「郡・町村」がもっとも高く（48.3 %）、「東京特別区（東京 23 区）」が 20.8 % と最低になっている。「郡・町村」での「神棚」の保有率は高いものの、第 1 回調査（1999 年）と比較すると、74.3 % から 48.3 % へと 26 ポイント減少したことになる。わずか 20 年間での減少としては急激 といつていい減少である。

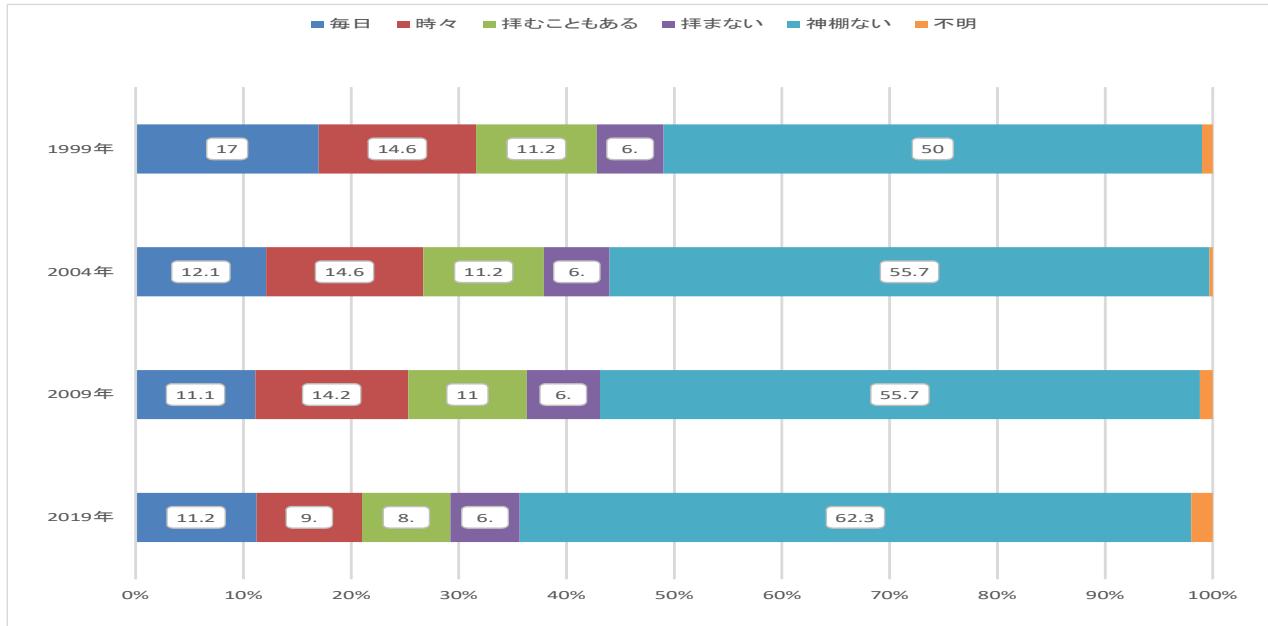
都市規模別に見ると、「神棚」「仏壇」とともに、規模が大きくなるほど保有率は少なくなっている。実際には、都市規模というよりはそれぞれの地域における家族構造や住居構造が問題になっていると考えられる。つまり、大都市における単身世帯数の増加、一戸建所有やマンション賃貸といった住居問題である。

年齢については年齢の高い方が保有率が高く、学歴については高学歴の方が保有率が低い。

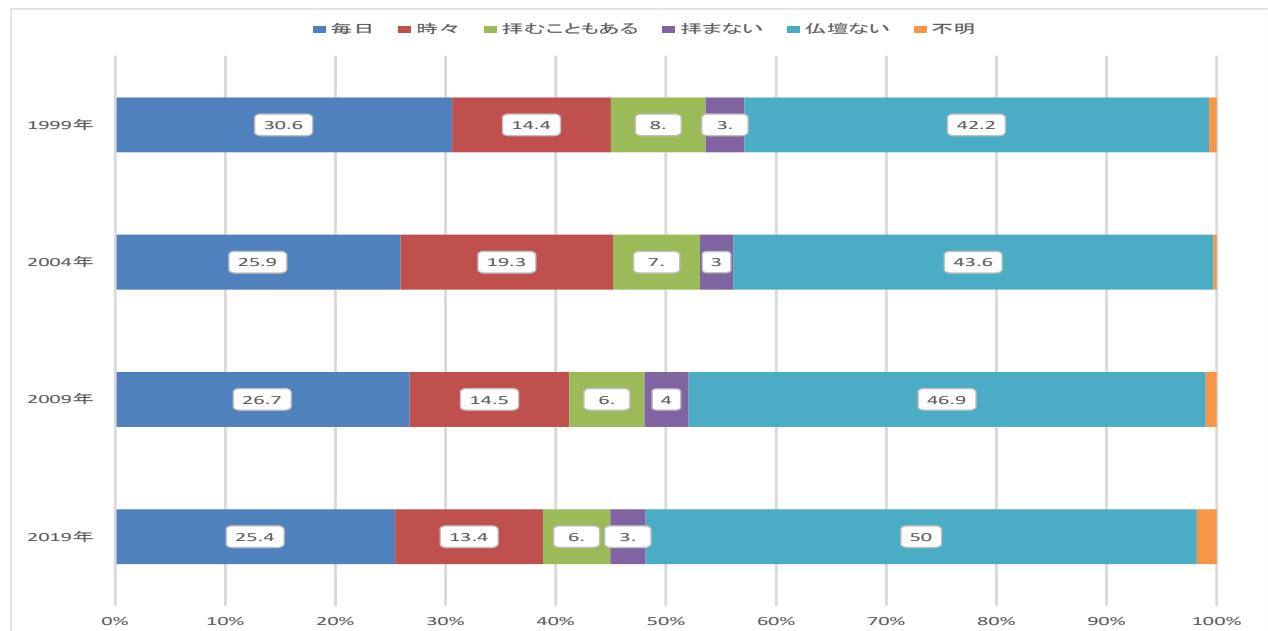
図表 5 神棚・仏壇の保有率：都市規模別



図表6 神棚の保有率・参拝の頻度



図表7 仏壇の保有率・参拝の頻度



図表6・7は20年間の「神棚」「仏壇」の保有率・参拝の変化を表したものである。

「神棚」「仏壇」の保有率は20年間、一貫して減少した。「神棚」の保有率は49%から44%、43.1%、35.6%へと減少した。20年間で13.4ポイント減少したことになる。

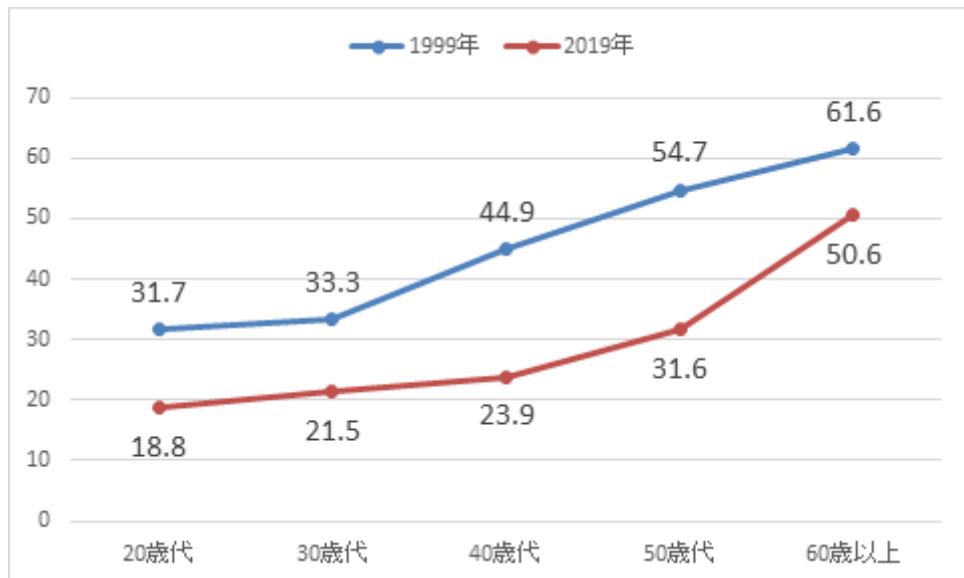
「仏壇」の保有率は57.1%から56.1%、52%、48.1%へと減少した。20年間で9ポイント減少したことになる。

「仏壇」の方が「神棚」よりも保有率が高く、また減少率も緩やかである。定期的な参拝者についても同じ傾向が見られる。

定期的な参拝者（「毎日挙む」と「時々挙む」の合計）は、20年間で「神棚」で31.6%から21%へ、「仏壇」で45%から38.8%へ減少した。

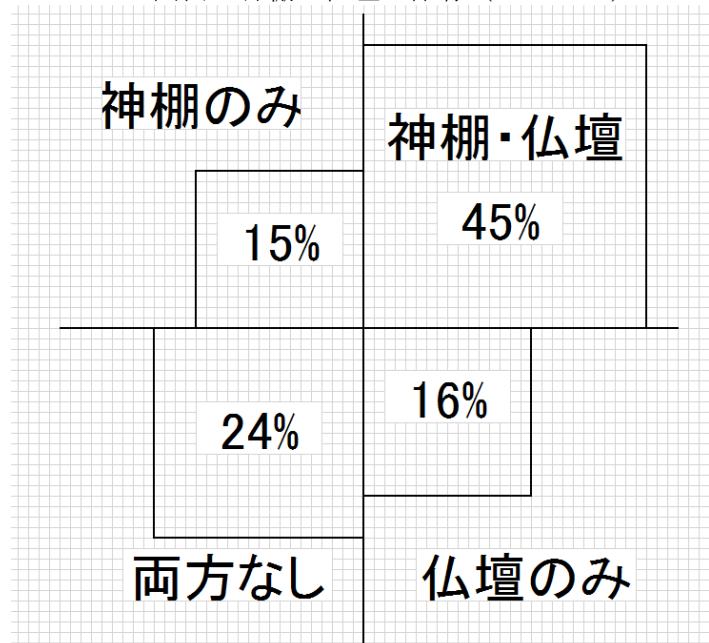
「神棚」の年齢別の保有率を 20 年前と比較すると、全世代で低下していることがわかる（図表 8）。つまり、1999 年に 40 歳 だった者が 20 年後に 60 歳になっても 1999 年当時のような保有率の上昇は見られなかった。今後もこの傾向が続くとすると、2039 年に 40 歳代・50 歳代は 2 割以下、60 歳代で 3 割となる。

図表 8 神棚の保有率：年齢別

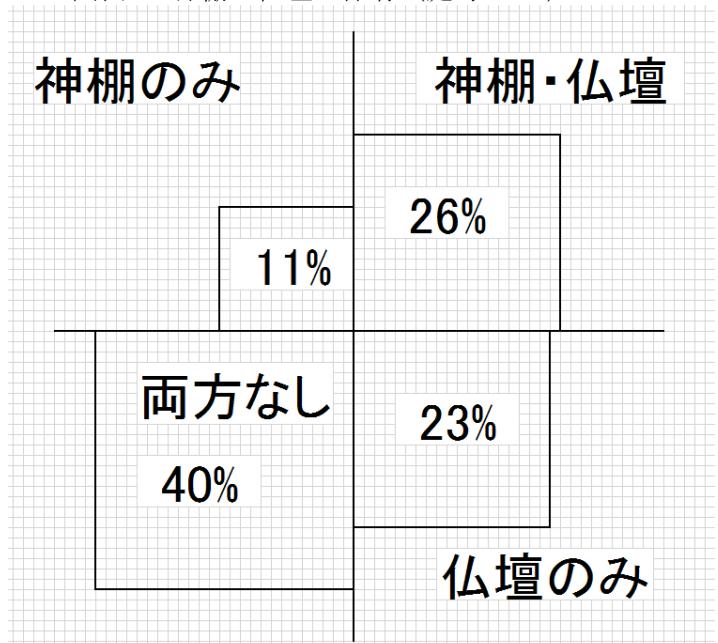


「神棚」「仏壇」の保有の実態について、NHK 放送世論調査所が 1981 年に実施した調査によると、保有に関する 4 つのパターンは図表 9 のようになる。グラフは保有率を面積比に直してある。「神棚」「仏壇」の両方を保有している割合がもっとも高く 45 パーセント、他方で今回の調査では、もっとも多いのは「神棚、仏壇が両方ともない」だった（40 %）。40 年ほどの間に、大きな構造的転換があったと考えられる。

図表 9 神棚と仏壇の保有（NHK1981）



図表 10 神棚と仏壇の保有（庭野 2019）



## どんな時に神社・お寺にお参りする？

Q 5 あなたは、どのような時に神社にお参りに行きますか。この中からいくつでもあげてください。 (M.A.)

	1999 年	2004 年	2009 年	2019 年
1.日課として	1.2	1.9	2.0	1.7
2.何気なく・通りかかったとき	14.6	14.0	14.2	15.6
3.初詣	70.1	69.5	74.9	69.4
4.厄除	20.6	16.7	19.6	19.0
5.七五三	26.6	24.9	27.3	25.3
6.お祭りの時	33.8	30.1	31.4	23.4
7.何か願い事があるとき	15.5	12.9	16.8	14.5
8.その他（具体的に）	3.0	2.4	2.0	3.3
9.お参りはしない	11.8	14.7	10.6	13.7
10.わからない	0.1	0.5	0.2	0.4

Q 6 あなたは、どのような時にお寺にお参りに行きますか。この中からいくつでもあげてください。 (M.A.)

	1999 年	2004 年	2009 年	2019 年
1.日課として	1.2	1.2	2.2	1.0
2.何気なく・通りかかったとき	6.4	8.9	8.1	8.4
3.初詣	16.4	15.3	15.6	17.7
4.厄除	4.5	4.4	5.3	5.9
5.七五三	2.2	2.3	2.7	4.3
6.お盆やお彼岸	56.4	55.0	56.8	47.7
7.何か願い事があるとき	4.2	4.8	5.7	6.0
8.その他（具体的に）	12.8	10.6	8.4	9.8
9.お参りはしない	23.4	23.9	23.3	24.6
10.わからない	0.7	0.7	0.6	1.0

日本人が神社、お寺にお参りする一般的な機会について尋ねた。神社に行く機会は、もっぱら「初詣」に限られていた (69.4%)。ついで「七五三」(25.3%)、「お祭の時」(23.4%)、「厄除」(19%) の順になるが、実施率は3割を切っている。「何か願い事があるとき」は15パーセントほどである。

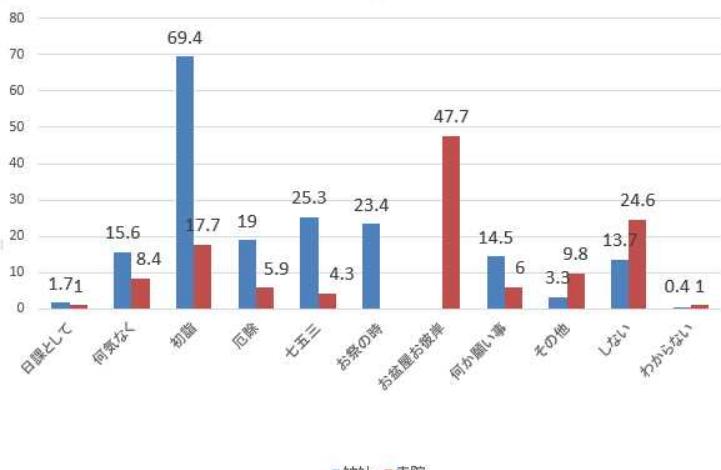
「初詣」は都市規模が大きくなると実施率が高くなる。「東京都特別区」の実施率は75.3パーセントである。

お寺に行く機会は、もっぱら「お盆やお彼岸」に限られている (47.7%)。「初詣」は2割に達しなかった。他の選択肢は1割以下である。日常的な関わりでいうと、「神社」の方が「寺院」よりも関係する頻度は高い。

「お盆やお彼岸」の実施は「郡・町村」でもっとも高く (59.3%)、都市部で低い。年齢が高くなるにつれて参拝する割合が高くなる。

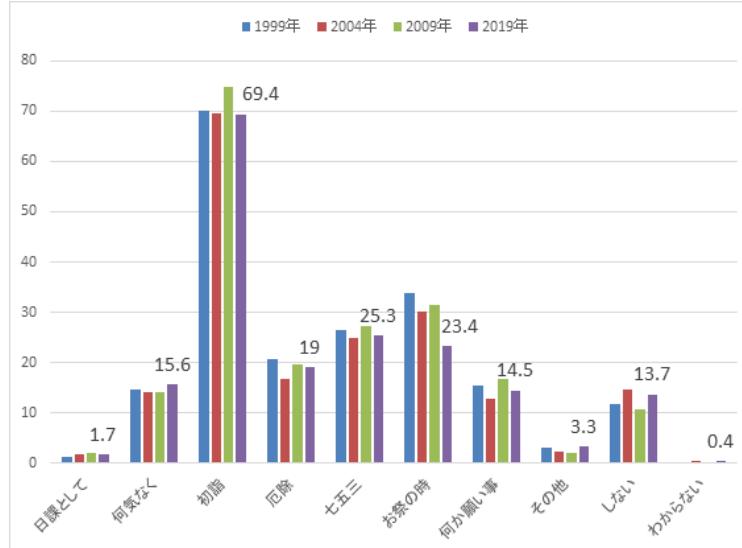
「厄除け」は神社と寺院の双方で行われているが、神社での「厄除け」の方が13ポイント高かった。神社での厄除けは「40代男性」(30.6%)に対して寺院は13.3パーセントだった。女性は「神社」で40歳代が37.4パーセント、「寺院」で30歳代が14.7パーセントだった。

図表 11 参拝の機会

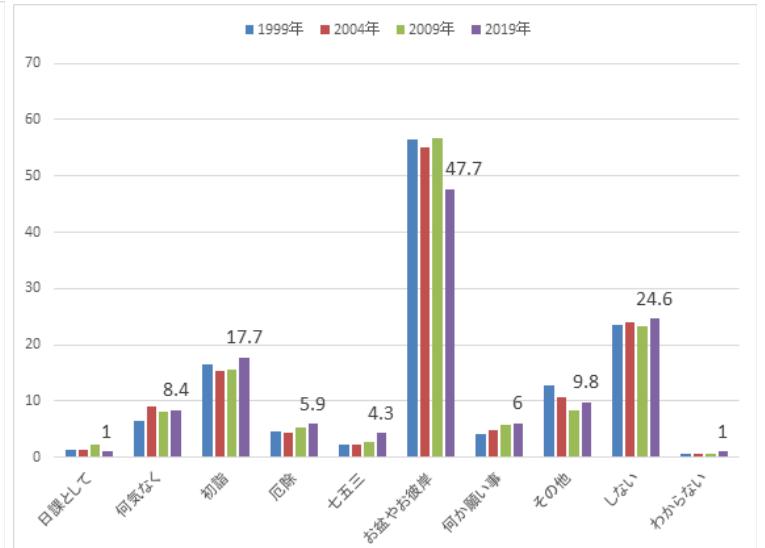


20年間の変化を示したのが図表11・12である。基本的に、この20年間に大きな変化は見られない。神社に関する「お祭りの時」、寺院に関する「お盆やお彼岸」の実施率が低下している点は、今後も注視すべきと考える。

図表12 神社への参拝の機会：経年変化



図表13 寺院への参拝の機会：経年変化



## 知っている宗教団体は？

Q 8 あなたは、ここにあげた神社やお寺、宗教団体で聞いたことや知っているものがあればいくつでもあげてください。  
(M.A.)

神社やお寺、宗教団体で知っているものがあるかどうかを尋ねた。「知っている」の内容は問わなかった。どの程度で回答者が「知っている」とするかは判断を委ねていることになる。

団体は、神社と寺院に関しては、初詣や観光などで著名とされている 9 つの神社と 9 つ、教会に関しては歴史的に著名なものと芸能人の結婚式で知られている 3 つである。新宗教団体については信者数の多い教団とマスコミで取り上げられることの多いものを選んだ。2019 年の第 4 回調査では、これまでの調査で認知率が 1 割以下だった教団を中心に一部削除した。

京都や奈良の寺院、テレビ等で報道されることの多い寺社の認知率は高かった。「伊勢神宮」「出雲大社」「明治神宮」「法隆寺」「清水寺」「金閣寺」の認知率は 9 割を超えた。日本人であれば誰でもが知っているというレベルである。「伏見稻荷神社」「鶴岡八幡宮」「太宰府天満宮」「日光東照宮」「厳島神社」「善光寺」が 9 割に達しなかったのは意外だった。さらに、「熱田神宮」「成田山新勝寺」「川崎大師」「中尊寺」は 7 割に達しなかった。

キリスト教の教会の認知度は低かった。日本で最大のカトリック教会である「イグナチオ教会」と著名な芸能人が結婚式を挙げたことで知られている「靈南坂教会」は 1 割ほど、キリスト教弾圧で教科書にも記載が見られる「浦上天主堂」も 4 割弱だった。

いわゆる新宗教で知名度が高かったのは、「創価学会」(87.3%)、「天理教」(79.2%) で、多くの信者を擁する「立正佼成会」は 5 割ほどだった。「幸福の科学」(70.7%)、PL 教団(47.7%)、ものの塔(52.9%)、統一協会(53.6%) の認知度が高いのは、宗教活動と異なった問題によるものと考えられる。

図表 1 4 は 4 回の結果を示したものである。おおよその傾向を示すと次のようになる。「伊勢神宮」や「明治神宮」のようにほとんど変化の見られないものもあるが、多くは変化しているといつていい。

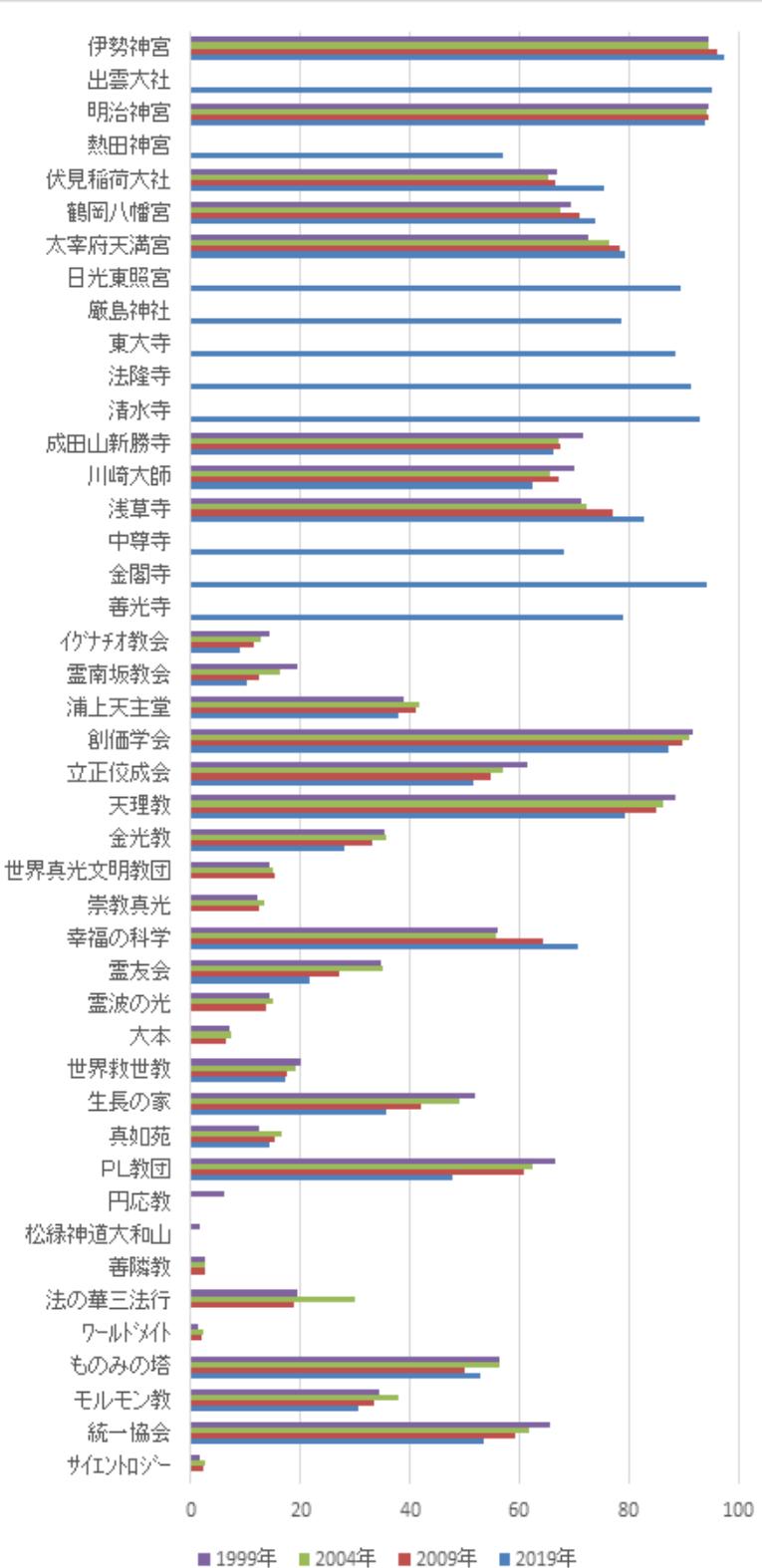
総じて「神社」の認知度は、「伏見稻荷」、「鶴岡八幡宮」、「太宰府天満宮」など数値が上昇している。他方で、寺院は「浅草寺」を除くと「成田山新勝寺」、「川崎大師」は継続的に減少しているということができる。

キリスト教は、「浦上天主堂」は変わらないが、「イグナチオ教会」「靈南坂教会」は継続的に認知度を下げている。

新しい宗教団体は、「幸福の科学」を除くと、「創価学会」「天理教」「立正佼成会」「PL 教団」など認知度が下がっている。

図表 14 知っている宗教団体：経年変化

	2019年	2009年	2004年	1999年
伊勢神宮	97.5	96	94.6	94.6
出雲大社	95.3			
明治神宮	93.8	94.6	94.2	94.6
熱田神宮	56.9			
伏見稻荷大社	75.5	66.6	65.2	66.8
鶴岡八幡宮	73.9	71.1	67.5	69.5
太宰府天満宮	79.4	78.4	76.5	72.6
日光東照宮	89.4			
厳島神社	78.5			
東大寺	88.4			
法隆寺	91.4			
清水寺	92.9			
成田山新勝寺	66.2	67.4	67.1	71.5
川崎大師	62.4	67.1	65.7	70.1
浅草寺	82.9	76.9	72.3	71.2
中尊寺	68			
金閣寺	94.3			
善光寺	78.8			
イクナチオ教会	9.1	11.5	12.9	14.3
靈南坂教会	10.1	12.6	16.2	19.5
浦上天主堂	38	41.1	41.6	38.9
創価学会	87.3	89.9	91	91.7
立正佼成会	51.5	54.8	57	61.3
天理教	79.2	84.9	86.2	88.6
金光教	27.9	33	35.8	35.3
世界真光文明教団		15.4	14.9	14.3
基督教真光		12.6	13.3	12
幸福の科学	70.7	64.2	55.8	56.1
靈友会	21.7	27.2	35.2	34.6
靈波の光		13.8	15.1	14.4
大本		6.4	7.4	7.1
世界救世教	17.3	17.5	19	20.2
生長の家	35.8	42.1	49.2	51.9
真如苑	14.5	15.3	16.5	12.6
PL教団	47.7	60.7	62.4	66.5
円応教				6.2
松緑神道大和山				1.6
善隣教		2.5	2.6	2.5
法の華三法行		18.9	30.1	19.6
ワールドメイト		2	2.4	1.3
ものの塔	52.9	50.1	56.4	56.5
モルモン教	30.6	33.6	37.8	34.3
統一協会	53.6	59.3	61.9	65.5
サイエントロジー		2.3	2.5	1.7



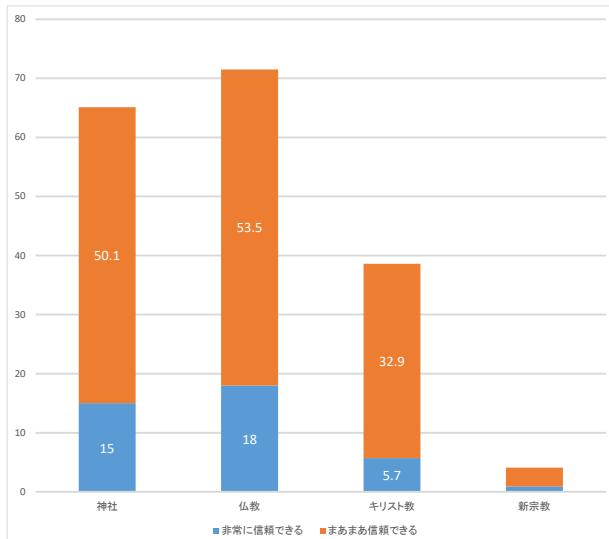
## 宗教団体への信頼度は？

Q 9 宗教団体を神道（神社）、仏教（寺院）、キリスト教（教会）、新しい宗教団体に分けたときに、それぞれの宗教団体を信頼できると思いますか。

	1999年	2004年	2009年	2019年
神道(神社)				
1.ひじょうに信頼できる	7.3	8.7	11.1	15.0
2.まあまあ信頼できる	34.9	40.6	43.3	50.1
3.あまり信頼できない	18.5	19.4	16.7	14.3
4.まったく信頼できない	30.8	10.7	9.9	7.4
5.わからない	27.0	20.6	18.9	13.1
仏教(寺院)				
1.ひじょうに信頼できる	14.9	14.2	16.4	18.0
2.まあまあ信頼できる	46.0	52.3	51.8	53.3
3.あまり信頼できない	13.7	13.2	11.0	11.1
4.まったく信頼できない	7.5	6.6	7.5	6.7
5.わからない	17.9	13.7	13.3	10.9
キリスト教(教会)				
1.ひじょうに信頼できる	4.5	3.6	4.6	5.7
2.まあまあ信頼できる	25.2	35.1	35.5	32.9
3.あまり信頼できない	19.5	24.0	22.9	20.2
4.まったく信頼できない	17.1	13.1	12.6	15.8
5.わからない	33.8	24.3	24.4	25.4
新しい宗教団体				
1.ひじょうに信頼できる	0.6	0.5	1.0	0.9
2.まあまあ信頼できる	2.2	2.9	3.8	3.2
3.あまり信頼できない	14.0	21.8	23.5	20.0
4.まったく信頼できない	52.3	52.5	46.4	47.0
5.わからない	31.0	22.3	25.3	29.0

それぞれの宗教系統別に、抽象的にならないように神社、寺院、教会などと注記しながら宗教団体の信頼度を尋ねた。信頼（「ひじょうに信頼できる」と「まあまあ信頼できる」の合計）を系統別に示したのが図表15である。もっとも「信頼」できる宗教系統は「仏教（寺院）」で71.3パーセントだった。「神道（神社）」は少し低くて65.1パーセントだった。「新しい宗教団体」は4.1パーセントで極端に低かった。「キリスト教（教会）」は伝統宗教と新しい宗教団体の中間で38.6パーセントだった。

図表15 宗教団体に対する評価



第1回調査（1999年）から第4回（2019年）までの20年間の変化を系統別に示したのが図表16である。

「神道（神社）」と「仏教（寺院）」の信頼度は、この20年間で継続的に高くなつた。とくに「神道（神社）」の信頼度（「ひじょうに信頼できる」と「まあまあ信頼できる」の合計）は大きく、22.9ポイント増加した。この20年間に生じた顕著な神社への関心、たとえば世界遺産、パワースポット・ブーム、式年遷宮、御朱印ブームなどが背景にあると考えられる。

「仏教（寺院）」の20年間の増加は10.6ポイントだった。

「神道（神社）」と「仏教（寺院）」の信頼度は、各回ともに「仏教（寺院）」の方が高かつた。「仏教（寺院）」を信頼できない（「まったく信頼できない」と「あまり信頼できない」の合計）とする回答は2割以下である。

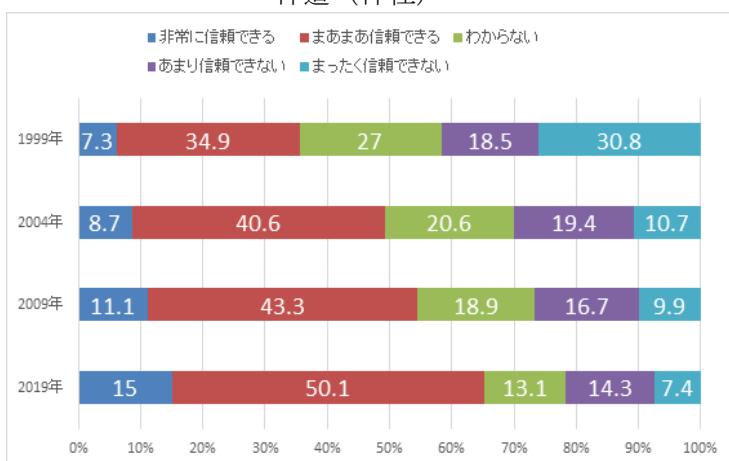
10年前の第3回調査報告書では「宗教団体への信頼度は、総じて好転した」と記したが、「キリスト教（教会）」「新しい宗教団体」については、ほとんど変化は見られなかつた、という方が適切である。

「キリスト教（教会）」は、信頼（「ひじょうに信頼できる」と「まあまあ信頼できる」の合計）が信頼できない（「ひじょうに信頼できない」と「あまり信頼できない」の合計）を上回つてはいるものの、4割弱にとどまつている。

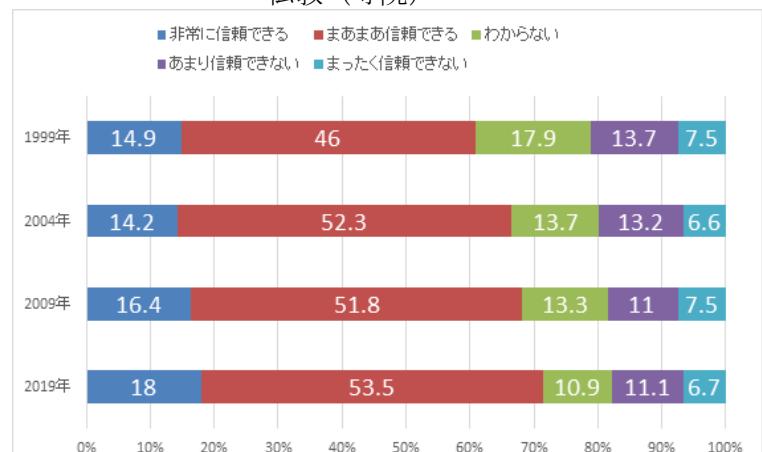
「新しい宗教団体」に関しては、第1回調査がオウム真理教事件の余韻が残る1999年の実施であり、厳しい評価が予想された。しかしながら、20年経つ現在も大きな変化はなく、そのままの状態が続いている。

図表16 宗教団体に対する評価：系統別

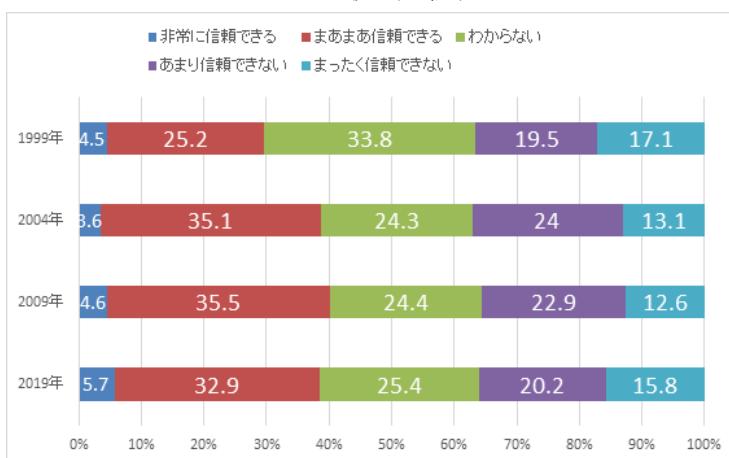
神道（神社）



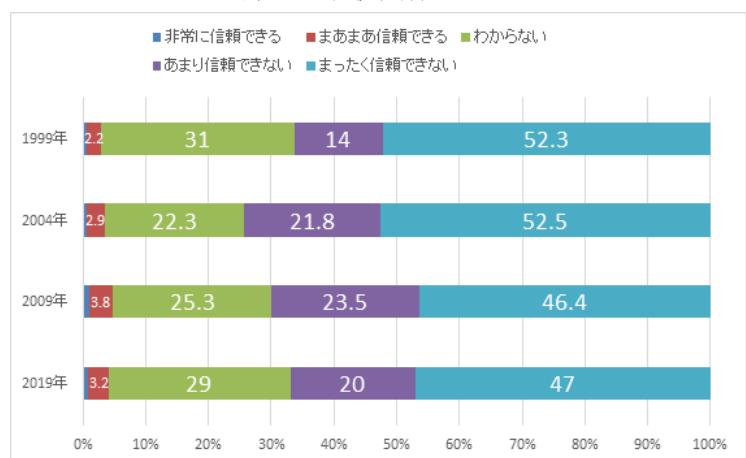
仏教（寺院）



キリスト教（寺院）



新しい宗教団体



宗教団体のイメージは？

Q 10 あなたは、神道（神社）、仏教（寺院）、キリスト教（教会）、新しい宗教団体に対して、どのようなイメージを持っていますか。それぞれについていくつでもお答えください。（M.A.）

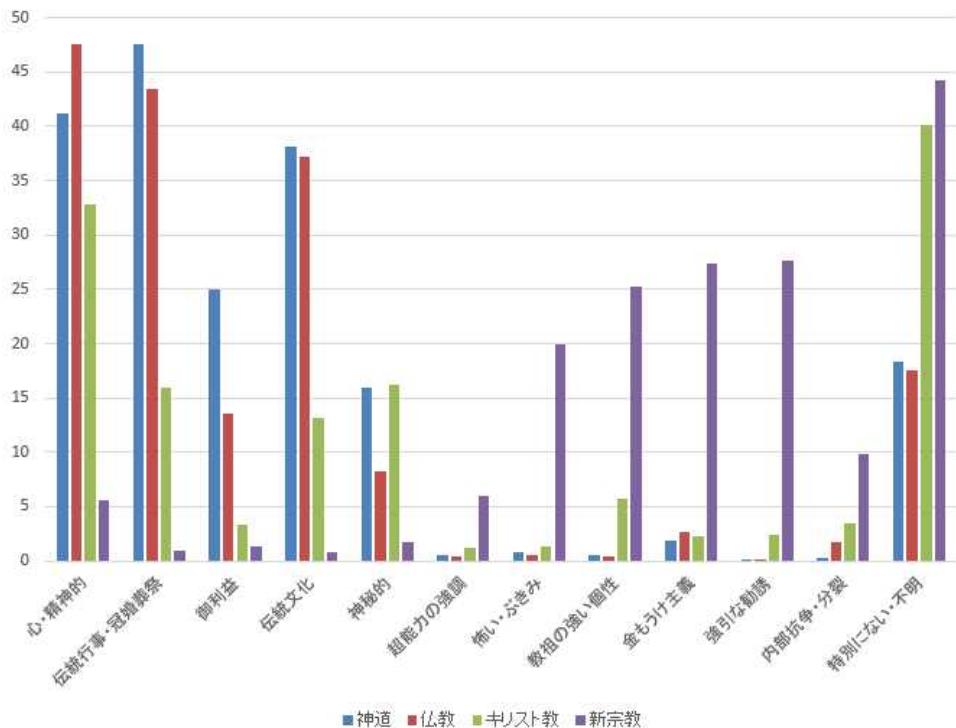
	1999年	2004年	2009年	2019年
1.神道（神社）				
1.心・精神的	31.4	38.1	38.0	41.2
2 伝統行事・冠婚葬祭	35.0	41.7	40.9	47.8
3.御利益	9.3	14.9	17.4	25.0
4.伝統文化	19.1	29.4	31.6	38.1
5.神秘的	7.0	11.9	13.6	16.0
6.超能力の強調	0.7	1.2	1.3	0.6
7.怖い・ぶきみ	1.0	1.1	1.0	0.8
8.教祖の強い個性	0.7	0.9	0.8	0.6
9.金もうけ主義	3.3	2.8	1.8	1.9
10.強引な勧誘	0.5	0.6	0.3	0.2
11.内部抗争・分裂	0.8	0.6	0.2	0.6
12.特別にない・分からない	33.3	24.2	24.7	18.3
2.仏教（寺院）				
1.心・精神的	39.0	44.8	45.2	47.5
2 伝統行事・冠婚葬祭	44.2	48.4	45.4	43.5
3.御利益	7.1	11.3	11.2	13.5
4.伝統文化	23.6	33.9	33.2	37.2
5.神秘的	2.5	5.0	6.0	8.2
6.超能力の強調	0.4	0.8	0.4	0.4
7.怖い・ぶきみ	0.4	0.6	1.0	0.5
8.教祖の強い個性	0.6	0.9	1.4	0.4
9.金もうけ主義	4.2	3.6	2.2	2.7
10.強引な勧誘	0.1	0.4	0.5	0.2
11.内部抗争・分裂	2.7	1.6	1.1	1.7
12.特別にない・分からない	23.3	17.4	19.5	17.5
3.キリスト教				
1.心・精神的	30.0	36.2	35.2	32.8
2 伝統行事・冠婚葬祭	14.2	17.8	18.9	15.9
3.御利益	1.6	1.6	2.6	3.3
4.伝統文化	8.3	11.8	13.2	13.1
5.神秘的	10.6	16.0	15.3	16.2
6.超能力の強調	1.1	1.2	1.0	1.2
7.怖い・ぶきみ	0.4	1.5	1.2	1.4
8.教祖の強い個性	2.8	3.9	3.4	5.7
9.金もうけ主義	1.9	1.7	1.3	2.2
10.強引な勧誘	0.8	2.1	1.5	2.4
11.内部抗争・分裂	2.6	4.3	3.9	3.4
12.特別にない・分からない	47.1	37.5	40.4	40.1
4.新しい宗教団体				
1.心・精神的	2.8	3.2	3.9	5.6
2 伝統行事・冠婚葬祭	0.4	0.6	0.3	1.0
3.御利益	2.2	2.7	2.7	1.3
4.伝統文化	0.1	0.1	0.1	0.8
5.神秘的	1.0	2.5	2.0	1.7
6.超能力の強調	8.0	13.6	9.5	6.0
7.怖い・ぶきみ	26.2	33.1	25.6	20.0
8.教祖の強い個性	23.9	35.1	28.2	25.3
9.金もうけ主義	35.9	45.8	34.8	27.4
10.強引な勧誘	30.0	40.0	31.5	27.6

11.内部抗争・分裂	8.8	15.1	9.8	9.8
12.特別がない・分からぬ	40.4	29.0	37.2	44.3

宗教団体の系統毎にイメージを尋ねた。回答は複数回答なので、選択肢の合計は100パーセントを超えており、系統別に各選択肢の回答率を示したのが図表17である。それぞれの選択肢の左から、「神道（神社）」「仏教（寺院）」「キリスト教（教会）」「新しい宗教団体」となっている。グラフ全体はV字のようになっているが、左側に集中している宗教系統と、右側に集中している宗教系統のあることがわかる。「神道（神社）」「仏教（寺院）」で回答率が高いのは「伝統行事・冠婚葬祭」「心・精神的」「伝統文化」である。

「キリスト教（教会）」でもっとも多いのは「心・精神的」で、他の選択肢の回答率は低い。「特別がない・分からぬ」が4割を超えており、「新宗教」では数値が高い選択肢は消極的な評価に関するものが大半である。「強引な勧誘」「金もうけ主義」「教祖の強い個性」の三つの選択肢が25パーセントを超えており、これらは右側に集中している。

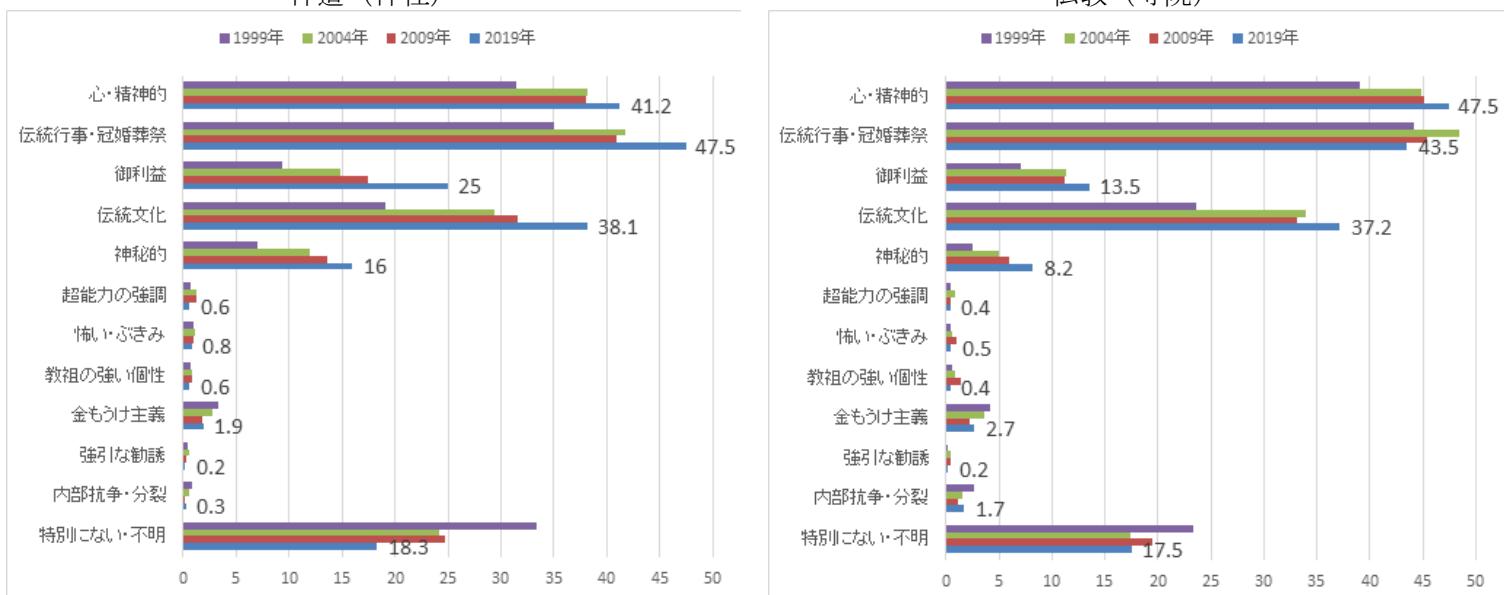
図表17 宗教団体のイメージ：系統別



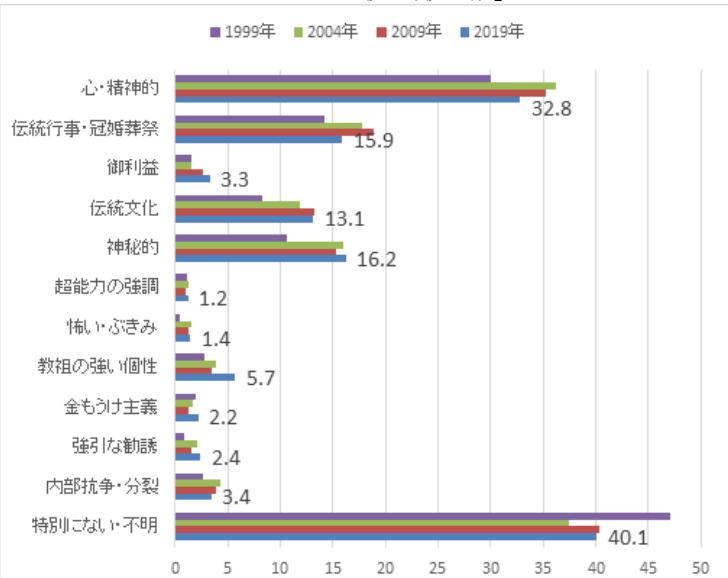
図表18 宗教団体に対する評価：系統・経年別

神道（神社）

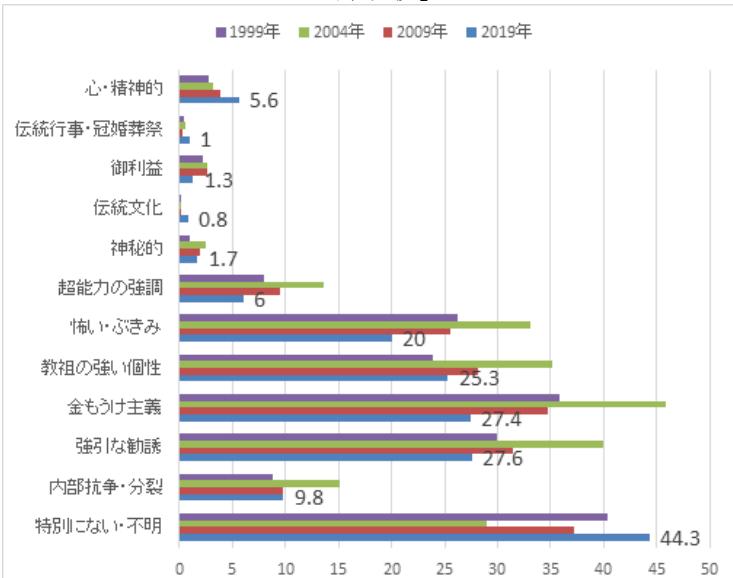
仏教（寺院）



「キリスト教（教会）」



「新宗教」



図表18の4つのグラフを比較すると、「神道（神社）」と「仏教（寺院）」の回答結果は近似している。「新宗教」は伝統宗教とはまったく異なる調査結果を示しており、「キリスト教（教会）」は、中間ともいえるグラフとなっている。

この20年間で、「神道（神社）」のイメージが著しく高くなった。「心・精神的」が9.8ポイント、「伝統行事・冠婚葬祭」が12.8ポイント、「御利益」が15.7ポイント、「伝統文化」が19ポイント増加した。これらの項目は「仏教（寺院）」で高かったが、20年間で追い抜いたことになる。

「仏教（寺院）」も「心・精神的」「御利益」「伝統文化」でポイントが増加した。とくに「心・精神的」は半数近く（47.5%）が回答している。

「キリスト教（教会）」に変化は見られなかった。

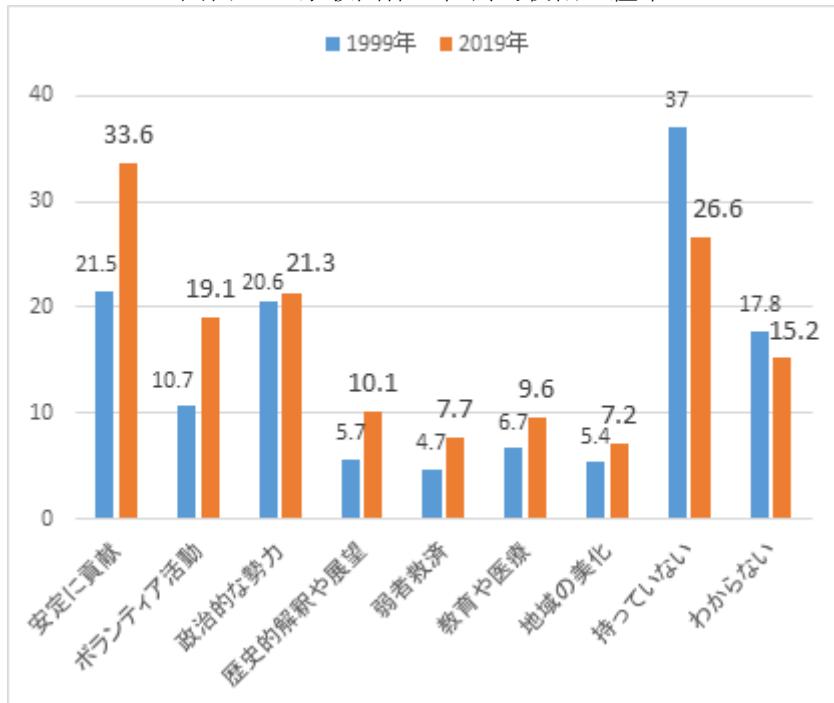
「新しい宗教団体」は、前回2004年の結果が「金もうけ主義」などマイナスイメージが強かったが、今回調査では全体的にマイナスイメージが薄れている。

## 宗教団体の社会的な役割や影響力は？

Q 11 神社やお寺、新しい宗教団体は社会的にどのような役割を持っていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。（M.A.）

	1999年	2004年	2009年	2019年
1.地域社会の交流や安定に貢献している	21.5	33.6	33.6	33.6
2.災害時の救援やボランティア活動など社会的に貢献している	10.7	19.1	19.1	19.1
3.選挙の際に活動し、政治的な勢力となっている	20.6	21.3	21.3	21.3
4.日本の戦後に関する歴史解釈や将来の展望などの点で影響力を持っている	5.7	5.7	5.7	5.7
5.ホームレスや難民など、弱者救済に活躍している	4.7	7.7	7.7	7.7
6.学校や病院など、教育や医療の分野で貢献している	6.7	6.7	6.7	6.7
7.道路や公園の清掃など地域の美化に貢献している	5.4	5.4	5.4	5.4
8.とくべつ影響力を持っていない	37.0	37.0	37.0	37.0
9.わからない	17.8	17.8	17.8	15.2

図表 19 宗教団体の社会的役割：経年



宗教団体の社会的役割に関する質問は第1回調査（1999年）に実施してから20年ぶりとなる。

すべての選択肢で数値は増加している。とくに「地域社会の交流や安定に貢献している」（12.1ポイント増加）、「災害時の救援やボランティア活動など社会的に貢献している」（8.4ポイント増加）が顕著である。東日本大震災を始めとした自然災害での宗教団体の活動が周知されるようになったことと、関係があると考えられる。

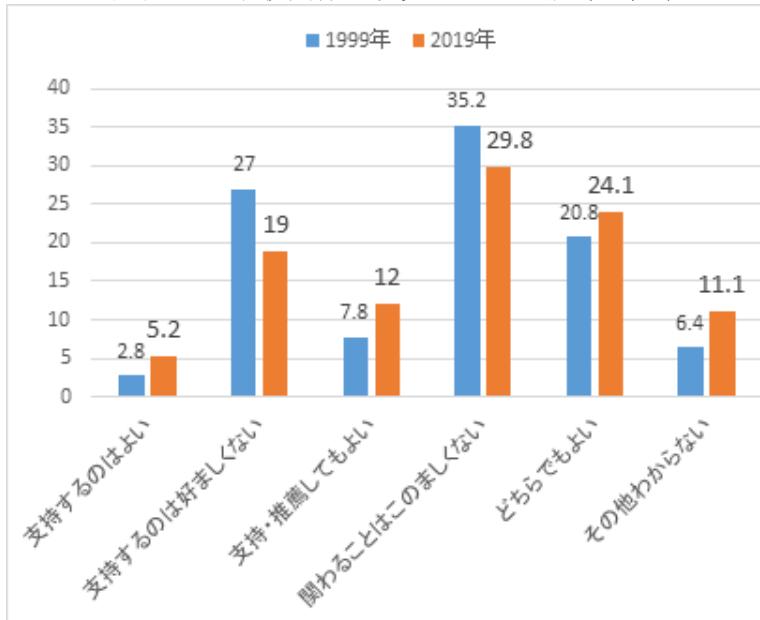
宗教団体の社会的役割に関する結果については、庭野平和財団が2008年から4年ごとに実施してきた「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」の結果とほぼ同じ内容と考えられる。

## 宗教団体の政党や候補者の支持・推薦は？

Q 12 宗教団体が選挙で政党や候補者を支持・推薦したりすることがあります、あなたは、このことをどのように思いますか。この中から1つだけあげてください。

	1999年	2004年	2009年	2019年
1.宗教団体が特定政党を支持するのはよいことだ	2.8	8	5.2	5.2
2.宗教団体が特定政党を支持することは好ましくない	27	0	19.0	19.0
3.宗教団体が特定政党を支持することは好ましくないが、候補者個人を支持・推薦してもよい	7.8	8	12.0	12.0
4.宗教団体が選挙に関わることは好ましくない	35.2	2	29.8	29.8
5.支持してもしなくてもよい	20.8	8	24.1	24.1
6.その他	0.1	1	0.2	0.2
7.わからない	6.3	3	9.9	9.9

図表 20 宗教団体の政党の支持・推薦：経年



宗教団体と選挙との関わりに関する質問は第1回調査（1999年）に実施してから20年ぶりとなる。

質問全体からうかがえるのは、宗教団体が選挙に関わることに対する抵抗感が減少、もしくは無関心の増大である。「宗教団体が特定政党を支持するのはよいことだ」「宗教団体が特定政党を支持することは好ましくないが、候補者個人を支持・推薦してもよい」が増加し、「宗教団体が特定政党を支持することは好ましくない」「宗教団体が選挙に関わることは好ましくない」が減少した。

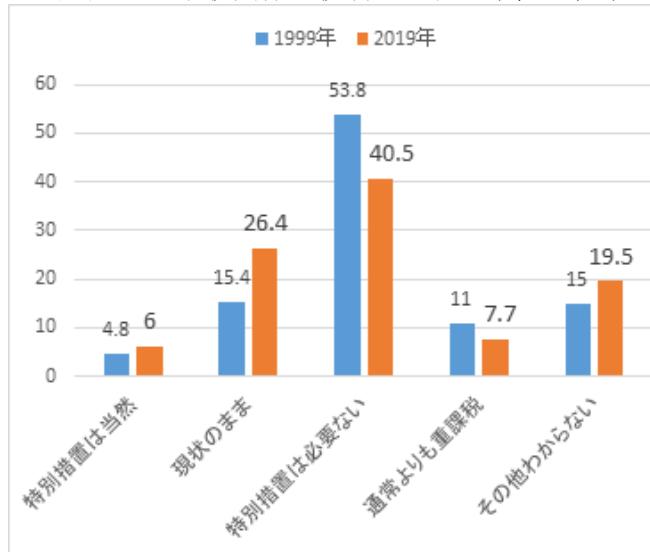
「支持してもしなくてもよい」「その他わからない」が増加している。

## 宗教団体の税制上の特別措置は？

Q 13 宗教団体については税制上特別な措置が設けられていますが、このことについてどう思いますか。この中から1つだけあげてください。

	1999年	2004年	2009年	2019年
1.税制上の特別措置は当然である	4.8	8		6.0
2.特別措置に問題はあるが、現状のままでよい		15.4		26.4
3.税制上の特別措置は必要ない		53.8		40.5
4.宗教団体が行う事業には通常よりも重い課税がなされるべきである		11.0		7.7
5.その他		0.7		0.5
6.わからない	14.3			19.0

図表 21 宗教団体の税制上の特別措置：経年



宗教団体と税制に関する質問は第1回調査（1999年）に実施してから20年ぶりとなる。

「税制上の特別措置は必要ない」「宗教団体が行う事業には通常よりも重い課税がなされるべきである」とする課税に関する厳しい意見は明確に減少した。

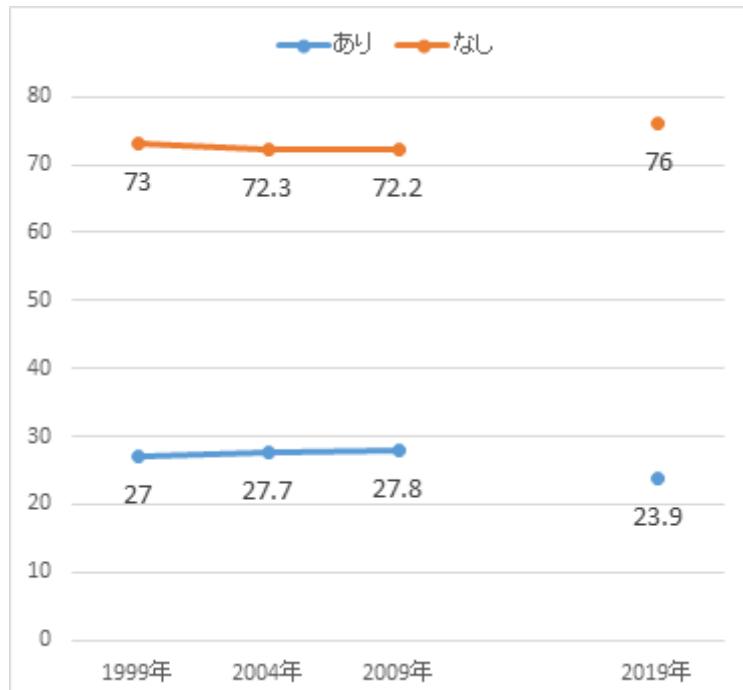
「特別措置に問題はあるが、現状のままでよい」とする回答が四人に一人以上の割合となった。

## 信仰・信心を持っているか？

Q 7 あなたは、信仰とか信心とかを持っていますか

	1999年	2004年	2009年	2019年
1.有る	27.0	27.7	27.8	23.9
2.ない	73.0	72.3	72.2	76.0
3.わからない	0.0	0.0	0.0	0.1

図表 22 信仰・信心の保有：経年



近年実施された「信仰の有無」に関する調査では、「信仰あり」は3割を切っている。本調査も4回の調査で同様の結果となっている。

2019年の調査では「信仰あり」が減少し、「信仰なし」が増加しているが、これを傾向とみるか誤差とみるかは今後の調査に待たなければならない。

<参考>

宗教についておききしたいのですが、  
たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？

1 もっている、信じている  
2 もっていない、信じていない、関心がない

集計対象：全体

問	信じている	信じていない	計
XIII (2013)	K12a	28	72 100 (1,591)
XII (2008)	K11a	27	73 100 (1,729)
XI (2003)	K12a	30	70 100 (1,192)
X (1998)	K12a	29	71 100 (1,339)
IX (1993)	K12a	33	67 100 (1,833)
VIII (1988)	K13a	31	69 100 (1,858)
VII (1983)	K15a	32	68 100 (2,256)
VI (1978)	K11a	34	66 100 (2,032)
V (1973)	K19a	25	75 100 (3,055)
IV (1968)	33a	30	70 100 (3,033)
III (1963)	28a	31	69 100 (2,698)
II (1958)	16a	35	65 100 (920)
I (1953)	×		

「日本人の国民性調査」 統計数理研究所

#### 信仰・信心

第28問 また、宗教とか信仰とかに関係すると思われるところから、あなたが信じているものがありますか。  
もしあれば、リストの中からいくつでもあげてください。（複数回答）

(略称)										
ア. 神	神	32.5 < 37.0	38.9 > 36.0	35.2 > 31.5	30.9	32.5	31.9	30.6		
イ. 仏	仏	41.6 < 44.8	43.8 44.6	44.1 > 38.7	38.6 < 42.2	40.9 > 37.8 >				
ウ. 聖書や経典などの教え	聖書・経典の教え	9.7 9.3	8.9 > 7.5	6.4 6.6	6.4 6.4	5.8 5.7 >				
エ. あの世、来世	あの世	6.6 < 9.0 < 11.7	11.9 < 13.4 > 9.7	10.9 < 14.6	13.4 > 10.8 <					
オ. 奇跡	奇跡	12.8 < 14.9	15.1 14.4 > 12.6 < 14.3	15.3 < 17.5	16.4 > 14.0					
カ. お守りやおふだなどの力	お守り・おふだの力	13.6 < 15.8	15.5 14.4	15.8 > 13.7	15.0 < 17.4	16.7 15.7 <				
キ. 易や占い	易・占い	6.0 < 8.3	8.3 > 7.0	5.9	6.0 < 7.4	6.6 > 5.3	4.6 >			
ク. 宗教とか信仰とかに関係していると思われるところからは、何も信じていない	信じていない	30.4 > 23.9	23.3 < 25.8	24.3 < 29.5 > 25.6	23.5 < 25.9 < 31.8					
ケ. その他		0.2	0.3 < 0.6	0.4 < 0.8 < 1.4 > 0.9	1.3	1.6 > 0.2				
コ. わからない、無回答	DK, NA	5.3	5.8 > 4.3 < 5.4 < 6.8	5.8 < 8.0	7.9 > 6.4	5.6				

NHK 放送文化研究所「日本人の意識調査」1973～2018